
ペインレスニードルの使用経験

澤石和歌子、関 純子、保坂るり子、佐川寿子、近江 薫
宮形 滋^{*}、原田 忠^{*}、木暮輝明^{*}
中通総合病院 血液浄化療法部、同 泌尿器科^{*}

Use experience of “PAIN LESS NEEDLE”

Wakako Sawaishi, Junko Seki, Ruriko Hosaka, Hisako Sagawa, Kaoru Omi
Shigeru Miyagata^{*}, Tadashi Harada^{*}, Teruaki Kigure^{*}
Nakadori General Hospital

<目的>

止血困難・穿刺困難・穿刺部位が限局された患者に対して、止血時間の短縮・穿刺痛の軽減・シャントトラブルの減少を図るため、平成16年からペインレスニードル(以下PN)を使用してきたが、継続例が少ない。

そこで当院での使用経験を振り返り、スタッフの意識調査をする事で継続できない原因や今後の対策について検討した。

<方法>

- ・平成16年9月～平成18年12月まで、PNを使用したボタンホール穿刺を10名に対して施行した結果を検討した。
- ・PN導入の際は18G クランプキャスで穿刺し、次の透析日に同じスタッフがPNを使用してボタンホールを作成した。
- ・スタッフに対し、PNに対するアンケート調査を施行した。

<結果>

患者にPNを使用した結果

- ・使用した理由は「穿刺痛」が圧倒的に多く、続いて「穿刺部位が限局している」が多かった。
- ・使用の中断は患者の申し出によるものが多く、トレース困難によって時間がかかり、穿刺痛が強いという理由が多かった。
- ・症例「I (男性)」以外の患者は、何度かホールの作り直しを行っていた(図1)(表1、2)。

アンケートの結果

- ・PN使用の得意・不得意に対して、医療従事年数・透析経験年数による差はみられなかった。
- ・穿刺時間は「延長した」が18名と最も多く、「変わらない」が2名、「短縮した」は0名であった。

- ・使いにくい理由として、得意・不得意とする患者がいることや、シャントの状態、穿刺技術の個人差によるトレース困難が挙げられた。
- ・今後の使用については、利点を考慮すると使用していきたいという回答が多かった（図2）。

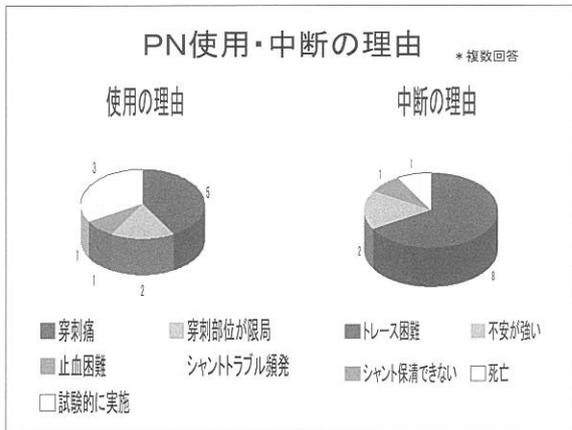


図1

表1

性別	シャントの種類	使用理由	中断理由	使用開始(年月日)	使用中断(年月日)	回数(回) PN使用有無
A	女	人工血管	穿刺痛	H16.9.28	継続中	349 A側:PN V側:PN
B	女	人工血管	穿刺痛	H17.5.5	H18.6.15	175 A側:PN V側:PN
C	女	自己血管	穿刺場所限局	H18.4.21	継続中	116 A側:PN V側:鋭利針
D	男	自己血管	シャントトラブル頻発	H17.12.26	H18.1.23	8 A側:PN V側:PN
E	男	自己血管	穿刺場所限局	H18.4.18	H18.5.30	10 A側:PN V側:鋭利針

*H18年12月現在

表2

性別	シャントの種類	使用理由	中断理由	使用開始(年月日)	使用中断(年月日)	回数(回) PN使用有無
F	女	人工血管	穿刺痛	H16.10.14	H17.4.19	41 A側:PN V側:PN
G	女	人工血管	試験的	H16.9.28	H16.10.16	7 A側:PN V側:PN
H	女	自己血管	試験的	H16.3.12	H16.3.19	4 A側:PN V側:PN
I	男	自己血管	試験的	H16.10.18	H16.10.20	1 A側:PN V側:PN
J	女	人工血管	穿刺痛	H16.10.4	H16.12.31	32 A側:PN V側:PN

*H18年12月現在

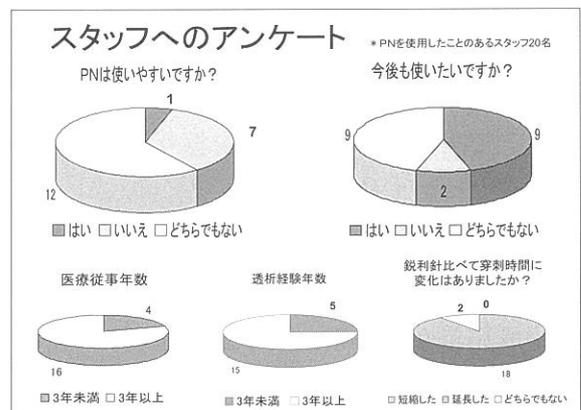


図2

<考察>

トレース困難による時間延長で穿刺痛が強く中断を求めるケースが多く、ホール作成期間・スタッフの技術の個人差が関与していると考えられる。今後は穿刺者を選任しホールを作成する。また、学習会を開催し、知識・技術の向上を図り穿刺痛・時間短縮を目指していく必要がある。

当院ではPNの好感度は低く、これはトレース困難による時間延長により患者・スタッフ双方にかかるストレスが原因と考えられる。その背景には、PN使用の得意、不得意を含めた技術面の個人差・穿刺者が日によって異なる業務体制が挙げられた。今後PNの使用を広めていくため、学習会を適時開催し、PNの苦手意識の軽減を図る・トレース困難を解消する為に、穿刺技術の統一を目指す・PNの理解を得るため再度、患者学習会を開催するがあると考えられる。

<まとめ>

今回当院でのPNの取り組みでは、トレース困難により、継続例が少なかった。この研究から

当院の反省点が明らかとなり、課題も明確化した。今回認められた利点を他の患者にも活かしていけるよう、今後課題に取り組み再挑戦していきたい。